

《特集：震災から1年》

東日本大震災から1年
—城西大学水田記念図書館の報告—

若 生 政 江*

〔抄録〕 平成23年3月11日に突然襲った東日本大震災は、埼玉県西部に位置する城西大学にも大きな被害を及ぼした。図書館棟の被害状況とその復旧作業、その後1年をかけた復旧工事と安全対策の取り組みや被災者支援などについても報告する。

〔キーワード〕 東日本大震災、城西大学水田記念図書館、図書館の被害、復旧作業、安全対策

1. は じ め に

平成23年3月11日に突然襲った東日本大震災から1年が経過。いまだ大きな爪あとを残し、被災地のこの1年が如何に困難を強いられたものであったか、被災された多くの皆さまにこの場をお借りして心よりお見舞い申し上げます。

この大震災は、埼玉県西部に位置する本学にも大きな被害を及ぼした。なかでもキャンパス内で一番高い9階建ての図書館棟は、4階以上のフロアが細長く、築33年ということもあり、被害は甚大であった。大学の所在地である坂戸市は、震度5弱の揺れであったが、高台に位置する大学の東側から東武越生線の川角駅までの間にある民家は、屋根瓦が落ちたらしく、どの家も青のビニールシートが掛けられていた。しかし、大学の西側や北側の住宅街、南側は高麗川を挟み農家が点在するが、そちらは何事もなかったようである。同じ地域でも揺れの道筋があったのであろうか、被害の状況は違っているようであった。

2. 図書館の被害状況

図書館棟は、外壁タイルの損傷、外壁・内壁の亀裂、9階閲覧室天井の落下、天井階にある給水管の損傷など、被害は甚大であった。当日の夕刻、もう大丈夫かと非難先のグランドから戻って見ると、1階エレベータホールが水浸しであった。最上階の給水管破損により、9階から1階までエレベータホールの窓を伝って大量の水が落ちていた。バケツに採っても取りきれない、手作業ではとても処理できる量ではない（写真1）。入退館ゲートの電気系統に浸水しないようダンボールなどで覆い、なんとか電気系統への浸水は防ぐ



写真1 1階エレベータホールに大量の水が

* Masae WAKO
城西大学水田記念図書館
〒350-0295 坂戸市けやき台1-1
E-mail: wako@josai.ac.jp

ことができた。しかし、6階から9階のエレベータホールの天井とカーペットは水浸しであった。その他、各階のトイレの壁やタイルの落下、6階ではエレベータ入口の壁が剥離し落下しているなど（写真2）、各階とも被害を受けていた。

一方、図書や雑誌などの資料は、1階から4階、9階と配架しているすべての場所で落下しており、積層書庫では足の踏み場もないほど大半の製本雑誌が落下した（写真3）。図書館棟とは別棟の1号館4階にある数学図書室も同様であっ



写真2 6階エレベータ入口



写真3 積層書庫の製本落下状況

た。図書館棟で比較的落下が少なかったのは1階の東側書庫で、書架が東西に設置してあるところであった。書架が南北に設置してあるところの落下が多く、書架の設置方向が揺れと関係があったのかと推測している。

3. 非 難 誘 導

大震災当日の入館者総数は186名であったが、地震の起こった時刻の利用者は、それほど多くはなかった。毎年開催される避難誘導訓練のとおり、緊急放送と館外への誘導、ひざ掛けの配布など、職員・スタッフの迅速な対応により利用者を安全に誘導することができた。毎年夏に行われる大学の防災訓練では、図書館利用者の救出を想定して職員・スタッフが訓練に参加していたが、全員がとっさの判断で訓練どおり動くことができた。後日、防犯カメラの映像で4階や9階閲覧室の揺れ状況を確認すると、改めて全員が無事であったことに安堵し、日ごろの訓練が如何に大切であるかを感じた。その後も、誘導訓練の検証を行い、反省点を踏まえた訓練を自発的に行っている。

4. 復旧作業と学生の応援

大震災翌日の3月12日から臨時休館と決め、余震と計画停電の続くなか、復旧作業を始めた。落下した図書や製本雑誌を書架に戻し、1階から3階までを早く開館するには学生の手を借りるしかない。学生課に相談した結果、3月16日には野球部の学生13名が応援に駆けつけてくれた。その後、安全を考慮して学生の学内入校が禁止となった。そのため、学生の代わりに他部署の職員や教員が手伝いに来てくれた。数日後、学生のキャンパス内入校の許可が出ると、学生課を通じて学生アルバイトのお願いをした。3月28・29日の2日間で延べ136名の学生により、積層書庫や数学図書室の資料が元の棚に戻った（写真4）。ゾロゾロと図書館に入ってくる学生に聞いてみると、「図書館に行くように」という学生上部団体からのメールで飛んできたと言うのである。普段から利用している図書館が大変だと聞き、駆けつけてくれたと言う。困惑して途方にくれていた図



写真4 学生アルバイトの作業風景

書館員に心強いサポーターが居てくれたことは何よりも嬉しいことであった。

5. 部 分 開 館

4月14日から上層階の安全が確保されるまで次のとおり部分開館で対応することになった。

- ・開館時間：平日・土曜とも9時から19時、日曜は9時から17時
- ・休 館：祝日
- ・利用場所：1階から3階までと積層書庫
- ・4階から9階までのすべての階の利用禁止とエレベータの使用禁止

部分開館の理由は次のとおりである。

- ① 4階から9階までの補修工事が終わるまで、利用者の安全を考慮して開室することはできない。
- ② 3階までならエレベータを利用せず非常時に非難誘導できる。
- ③ 節電への対応も考慮して19時までとする。

その後、6月27日から7月末までの前期末試験期間のみ、利用者数の増加を考慮して4階から6階を開室した。12月1日から図書館運営委員会の議を得て、平日の開館時間を通常の21時までに戻した。翌平成24年1月10日から学年末試験期間までの間、4階から6階までを開室し、1月25日には9階の復旧工事終了とともに9階を開

室することができた。

6. 復 旧 工 事

大震災直後から、大学の理事長をはじめ、学長・執行部の役職教員には、何度も図書館を視察していただき、早急な安全対策を指示していただいた。図書館長は毎日足を運び、陣頭指揮をされた。

そのようななか、学長の要請を受けて4月22日、「東日本大震災に関わる図書館災害復旧対策委員会」を設置した。委員会は、図書館長、副館長、図書館運営委員のなかから社会科学系代表1名、自然科学系代表1名、事務局長、管財課長、営繕課長、図書館事務長で構成され、審議の末、図書館棟の復旧と耐震二次診断実施について学長に上申した。耐震二次診断は7月末から8月にかけて実施され、平成24年度中に耐震工事をする事が決定された。

この1年、図書館棟はいろいろな部分の復旧工事が行われた。最初に外壁のタイルの亀裂を補修し、タイル止め工事、階段やトイレのひび割れの補修など、外壁と1階から3階までの内部を早急に補修し、外壁工事中は荷物の搬入口を仮設の入り口として、事務室内を通路にして開館した。仮設の入り口利用は、数カ月には及んだ。1年かけて工事を行い、平成24年1月末には、ようやく1階から9階まで大震災前の状態に戻すことができた。仮設の入り口、工事の騒音、塗料の匂いなど、利用者には多大な迷惑をかけることになった。何よりも開館時間の短縮や上層階の利用停止など、学習する「場」としての図書館機能を低下させてしまった。しかし、それでも、「早く開館したことに感謝する」という意見が利用者アンケートに寄せられた。利用者の期待を裏切らないためにも安全・安心な図書館にしなければならぬ。

7. 安 全 対 策

今回の大震災では、書架自体の破損や倒壊はなかったが、大量の資料が書架から落下した。そこで資料の落下防止対策として、積層書庫、数学図書室など、書架の上部2段、場所によっては3段



写真5 取り付けけた図書落下防止装置

まで図書落下防止装置を取り付けた（写真5）。また、階段付近は通路確保のため、書架のすべての棚に図書落下防止装置を取り付けた。1階から4階までのすべての開架書架には、落下防止テープを書架の上部2段に取り付けた。書架の棚板すべてに取り付けることはできないが、利用者の頭上や胸の位置から資料が落下するのを防ぎ、階段付近などの通路確保だけはしておきたいとの考えである。

書架の転倒防止対策については、転倒防止用として書架上部を連結していたが、大震災の後、再点検を行い、未設置個所については新たに取り付けた。数学図書室で書架が歪んだ個所があったため、それらの歪んだ書架は新規に取り換えた。

窓の少ない積層書庫については、停電すると非常灯が点灯するが、非常時に書庫内の利用者をさらに安全に誘導するため、懐中電灯などを入口付近に取り付けた。ペットボトルなどの備蓄品も少しであるが用意した。これらの防災用品の購入費用は、台湾台北市の出版社からいただいた地震災害見舞金を使わせていただいた。台湾の漢珍數位図書股份有限公司様に、この場をお借りして改めてお礼申し上げたい。

上述のように、平成23年度は、大学の協力を得てさまざまな安全対策に取り組んできた。これで、平成24年度中に行われる耐震工事が終了すれば、より安全性を確保することができると考えている。

8. 被災者支援の取り組み

本学では、震災直後にいち早く、被災した地域出身の学生のために「緊急特別支援制度」を創設した。法人役員・教職員・学生が募金した義援金などにより学納金の減免を行い、被災地域出身の学生支援をしている。一般学生たちは、自らチャリティバザーやチャリティコンサートを開催し、義援金を贈った。現地にボランティアとして行った学生も多い。

図書館では、被災地域の大学・短期大学などに所属する方への支援ということで、本学図書館を利用していただくようホームページで呼びかけた。また、東日本大震災に関連した総合サイトや、無料公開されている文献情報などを集めたWebサイトを作成・公開し、情報提供に努めた¹⁾。被災した地域出身の学生には、シラバス指定の教科書・参考書の長期間特別貸し出しを実施しており、平成24年度も利用されている。

9. 終わりに

本学図書館では、月替わりで展示を行っているが、平成24年3月の展示は「東日本大震災アーカイブ in 城西大学水田記念図書館」であった。大震災翌日の新聞や震災以後の資料の展示とともに、当日の本学図書館の防犯カメラに映った映像を公開した。そこには9階閲覧室にいた利用者の逃げる姿が映し出され、天井が落ちた瞬間にテーブルが止まった様子や、避難誘導のため9階まで階段を駆け上ってきたスタッフの様子も映し出されている。4階では職員の「落ち着いてください。書架から離れてください。机の下に入ってください」など、非難誘導放送の音声も、書架のひしめき合う音とともに録音されていた。また、書架から落下していく図書の光景がはっきりと映し出されていた。

この「東日本大震災アーカイブ」の展示には、多くの利用者が足を止め、無言で映像に見入っていた。この大震災を忘れないために、記録として残すこと、利用者の注意を喚起すること、危機意識を持つことが、図書館として今できることではないかとの思いで公開した。なお、展示に使用し

たパネルは、図書館のホームページで公開しているのでご覧いただきたい²⁾。

被災地から遠く離れた埼玉県西部地域に位置する城西大学水田記念図書館の記録として、被災地からこんなに離れていても被害があったという、大震災の大きさを報告するために筆を取りました。

被災地の皆さまの1日も早い復興をお祈りいたします。

参 考 文 献

- 1) 「東日本大震災」関連 特別情報. (オンライン), 入手先〈<http://libopac.josai.ac.jp/top/special.htm>〉, (参照 2012-05-02).
- 2) 東日本大震災アーカイブ in 城西大学水田記念図書館. (オンライン), 入手先 〈<http://libopac.josai.ac.jp/guide/tenji/images/list1202.pdf>〉, (参照 2012-05-02).

(原稿受付け: 2012.4.24)